



奈良教育大学 (奈良県)



古都・奈良で学ぶ 日本語・日本文化実地検証プログラム

-やまと-

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

本学は1888年に奈良県立尋常師範学校として創設されて以来、2018年で130年の歴史を有している。学部、教職大学院、大学院教育学研究科修士課程を設置し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ることを目的としている。

2) 教員・学生数等：

教員数 93人 学生数 1,251人

② 国際交流の実績

現在7か国12大学と国際交流協定を結び、小規模大学ながら活発に国際交流を行っている。

特に学生交流では、教員養成大学の特性（さまざまな専門領域の教育が提供されている）、古都奈良の特色を生かした留学生プログラムが高く評価されており、毎年、学部・大学院の正規留学生だけでなく、協定大学をはじめとする多様な国・地域からの留学生を多く受け入れている。

とりわけ日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）は、1987年に初めて1名を受け入れて以来、現在までに約40か国から約200名を受け入れてきた、大きな実績がある。（④地域の特色参照）



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2021年：留学生数33人、日研生3人

2020年：留学生数38人、日研生4人

2019年：留学生数56人、日研生9人

④ 地域の特色

本学がある奈良市は、8世紀には都（平城京）がおかれ国際交流都市として日本の国家や文化の礎がつけられたところである。そのため、現在でも町の中に伝統が色濃く残っており、過去と現在が交差するユニークな都市である。

2010年には平城遷都1300年を迎え、益々国際交流に力を入れている。留学生に対しては地域からの期待も大きく、たくさんのサポートを受けることができる。また大阪、京都にそれぞれ電車で1時間以内で行くこともできる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

以下の（a）（b）両方を対象とする。

（a）主に日本事情・日本文化に関する研修

（b）主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

本学はユネスコ世界遺産「古都奈良の文化財」に登録された社寺まで歩いて行けるだけでなく、本学内でも8世紀の寺の遺構が発掘されるなど、伝統文化を日常の中で体感できる、他にはない大学です。このような立地条件で提供するプログラム「やまと」の特色は以下のとおりです。

1) 日本文化の原点とも言える地にあるという利点を生かして、伝統文化が現代文化とどのように共存しているか、またその背景にある日本人の価値観とは何かを理解できるように、講義だけでなく、実地研修の中で指導する。

2) 日本語、および日本文化関連の授業、実地検証などに

- おいて日研生独自の年間カリキュラムを提供する。
- 3) 教育大学であることの特色を生かし、附属学校園の授業に日本人学生とともに参加したり、子ども達と交流することで、日本の教育の実状も体験できる。
 - 4) 留学期間をとおして（特に後半の修了レポート作成において）、日研生各自の興味の対象に沿う指導を行う。

③ 受入定員

21名（大使館推薦15名、大学推薦6名）

④ 受講希望者の資格、条件等

規則を守り、真摯に日本語・日本文化を学習する意欲のある者

日本語能力試験（JLPT）N2以上の日本語能力が望ましい。

また、少なくとも2年以上の日本語学習歴、専攻は日本語学、日本文学、日本語教育、日本学、比較文化学であることが望ましい。

⑤ 達成目標

- 1) 日本語・日本文化をテーマとした研究・研修の成果に関する日本語の論文・レポートを作成できる
- 2) 大学での研究や社会生活に必要な日本語運用力を身につけること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2022年9月下旬 ～ 2023年8月下旬

（修了認定は9月中旬～下旬となるため、修了証書は後日郵送する。）

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

(2019年度実施)

※COVID-19の感染状況によって変更の可能性があります。

9月中旬～下旬：渡日、オリエンテーション

10月： 秋学期授業開始、秋季留学生懇談会（歓迎会）

11月： 学習旅行（滋賀県近江八幡市）、大学祭

1月： 歌舞伎観劇

3月： 大相撲見学

4月： 春学期授業開始、春季留学生懇談会（歓迎会）、
学習旅行（三重県伊賀志島）

7月： 文楽観劇

8月： 修了発表会 8月下旬：帰国

⑩ 研修・コース科目の概要・特色 ※COVID-19の感染状況によって変更の可能性があります。

1) 研修・コースの特徴

日本語教育に関して、それぞれの日本語能力レベルに応じて、日本語教育の専門家による日本語科目が受けられる（学部留学生向けの科目も組み合わせて受講する）。日本語・日本文化関連の授業では、言語・文化に関する深い知識について、その領域の専門家による講義と同時に、プロジェクトワークや学校交流等を取り入れた実践的な日本語使用および文化理解の機会が提供される。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目（★），II) 選択科目：以下のとおり。1コマ90分

	授業科目	コマ数		
		秋学期	春学期	計
日本語	(★)日本語Ⅰ（上級論文執筆技術）	15	15	30
	(★)日本語Ⅱ（上級読解）	15	15	30
	(★)日本語コミュニケーション（体験型日本語学習）	15		15
	(★)日本語演習Ⅱ（中上級アカデミック読解）	15		15
	(★)日本語演習Ⅱ（中上級小論文執筆技術）	15		15
	(★)日本語演習Ⅰ（中上級文学読解）		15	15
	(★)日本語演習Ⅰ（中上級小論文執筆）		15	15
	(★)日本語文献講読（言語）		15	15
・(★)日本語能力に応じて指導教員が指定した科目を履修				

⑨ コースの修了要件

- 以下の要件を満たした場合、国際交流推進室がコース修了を認定し、修了証書を発行する。
- ・秋学期、春学期で指定された科目を含む合計14科目以上を履修し合格すること
 - ・コースで定められた実地研修に参加すること
 - ・本コースの成果として、日本や日本文化に関するレポートを日本語で作成すること
 - ・成績証明書の発行（各学期の終了後に発行します）

※単位の認定及び単位互換

本コースで履修し合格した授業については単位が認定される。

大学推薦の学生は、取得した単位は大学間協定に基づいて互換することが可能である。

日本文化	★※日本文化史	15		15
	★※比較文化論		15	15
	★※現代日本論		15	15
	※比較言語文化論Ⅱ	15		15
	文化関連科目	15		15
	日本語文献講読（文化）		15	15
	※比較言語文化論Ⅰ		15	15
	※国際文化論		15	15
その他	※日本語教育論	15		15
	※日本語教授法特講		15	15
	★修了レポート指導	—	—	—
日本文化科目、その他の科目のうち、 ★は必修科目、※は日本人学生の受講も可				

上記の表に記載された留学生用授業が開講されていない時間は、日本語能力や興味に応じてその他の日本人向け授業を履修し、単位を取得することができる（ただし指導教員および担当教員の許可が必要）

日本人学生向け授業例

日本文学史Ⅰ

日本文学概説Ⅰ

日本文学概説Ⅱ

古典文学再入門『竹取物語』を読み直す

日本語学概説Ⅰ

アジアの中の日本美術史

民族音楽学

など

⑩ 研修・コース科目の概要・特色（続き）

3) 見学、地域交流等の参加型科目

11月、1月 地域の小中学校での交流や授業体験
（日本人学生も参加）

11月 学習旅行（滋賀県近江八幡市）

4月 学習旅行（三重県答志島）

日本文化の体験

1月 歌舞伎鑑賞 3月 大相撲観戦、他

・学内サークルや部活動に参加可能。

・大学主催の国際交流イベント（月1回程度）のほか、
地域団体主催の文化体験プログラムにも参加可能。



学習旅行（答志島）



交流イベント「田植え」



交流イベント「なっきょん's café」

4) 日本人学生との共修の機会

以下の留学生向け科目（(2)の表※を付した科目）は
日本人学生も受講可である。

-日本文化史 -比較文化論 -現代日本論

-比較言語文化論Ⅰ／Ⅱ -日本語教育論

-日本語教授法特講 -国際文化論

また以下の科目でも日本人学生との共修機会を提供して
いる。

-日本人向け科目（授業担当教員の許可の下受講可）

-日本語科目におけるクラス活動（地域の交流の準備時
間等）

⑪ 指導体制

学業面では以下の教員が個別指導を行う。

（ ）内は専門分野

* 和泉元 千春（日本語教育学）

izumimotoc@cc.nara-edu.ac.jp

* 小村 明子（比較文化学）

komura.akiko.8b@cc.nara-edu.ac.jp



附属幼稚園児を対象とした絵本の読み聞かせ



附属小学校での
交流授業

■宿 舎

日研生は、特に事情がない限り、大学の学生宿舎に
入居する。
寮費 約18,500円／月 （但し、居室光熱費別途）
Wi-fi設備あり。

◇その他

来日後に、全員、国民健康保険（月額約2,500円）、
外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険（略
称：インバウンド付帯学総）（年額約3,000円）に
加入する必要があります。

また、胸部レントゲン検査を受けてもらいます。

■修了生へのフォローアップ

①指導体制

帰国後の学生が研究留学生として再渡日を希望する
場合には、比較文化学及び日本語教育学を専門とする
留学生担当教員がe-mail 等で助言している。

②キャリアパス（一例）

日本やその他の国の日本語教育機関において教職、
研究職に従事。日本語能力、日本理解を必要とする
日本国内外の企業への就職。

■問合せ先

<担当部署>

奈良教育大学学生支援課国際交流・留学生担当

住所： 〒630-8528

奈良県奈良市高畑町

TEL： +81-742-27-9148（直通）

FAX： +81-742-27-9146

Email： ryugaku@nara-edu.ac.jp

<ウェブサイト>

奈良教育大学国際交流留学センター：

<http://cies.nara-edu.ac.jp/>

奈良教育大学：

<https://www.nara-edu.ac.jp/>